

1人のもれもない、国勢調査を!!

統計課長 柴崎茂雄

連日30度を超える暑い夏も終わり、朝晩、秋風を感じるころになりました。各市町村担当者や指導員、調査員の方々には、10月1日の国勢調査に向かって、大変ご苦勞のことと心から感謝申し上げます。

市町村では、連日調査関係書類の仕分、指導員、調査員への書類の配布や説明会、及び住民の関心を盛り上げるべく広報活動というように本格的な作業に入っていることでしょうか。県においても、調査協力の円滑をはかるため新聞等へのPR文の掲載、懸垂幕の掲出などの広報や、審査体制の最終的確認などの作業を行い、諸般の準備を進めているところです。

今回の調査環境は、核家族化や単身世帯の増加などにより、前回にも増して困難な状況と考えられます。しかし、国勢調査は決められた方法で、決められた期日に、1人のもれもなく、また重複することなく、実施されなければなりません。したがって、世帯を直接訪問されます調査員の方々のご苦勞は大変なものと推察しますが、本調査の意義を十分理解され、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

ここで、国勢調査の意義や必要性について、改めて考えてみたいと思います。まず、国勢調査はなぜ、5年ごとに調査しなければならないか、ということです。これは、現在のように社会経済の変化の激しい時代には、できるだけ短い間隔でわが国の人口や世帯の状況を把握しておかないと統計と実態が*かい離*してしまい、的確な行政ができなくなってしまいます。しかし、あまり短い

間隔で実施することは経費負担や世帯の負担が大きくなることから、5年間隔が適切であります。

また、国勢調査は全数調査ですが、住民票のような既存のものを利用すればという疑問もありますが、現在の社会状況の中では住民登録の場所と実際に住んでいる場所とが必ずしも一致していない例が多くあります。住民票に基づく統計ではごく限られた、男女、出生の年月などの固定的属性だけで、流動的な産業別、職業別にかかわる統計はできません。そこで、どうしても流動的属性にかかわる事柄についても調査をする国勢調査が必要となるわけです。

これらの必要性によってなされる国勢調査は、国をあげての大規模な調査ですが、その調査項目は外国のそれと比較しても多くありませんし、調査方法も簡単であります。

調査結果は、私たちのさまざまな行政に利用され、また間接的に私たちの生活に大いに役立っていますが、すぐに反映されるものではありません。間違った結果が得られることになると、私たち多くの人々が迷惑をこうむることになります。

したがって、国勢調査について県民の皆様には、国勢調査の意義を十分お考えいただきご協力をお願いするとともに、市町村、指導員、調査員の方々にはご苦勞のことと思いますが、深いご理解とご協力をお願い申し上げます。